

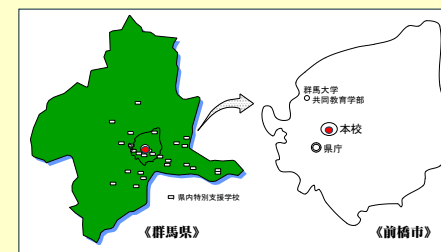
子どもの思いや考えを見取り、 支援に生かす授業の在り方

第65回全日本特別支援教育研究連盟全国大会新潟大会
第12分科会 特別支援学校の教育活動

群馬大学共同教育学部附属特別支援学校
真下 和将

群馬大学共同教育学部附属特別支援学校 について

- ・群馬県前橋市
- ・群馬大学共同教育学部の附属学校
- ・小学部・中学部・高等部を設置する知的障害者を教育する学校
- ・「子どもがいて学校がある」
をモットーに、子ども主体の
学校づくりに取り組む。



本校が目指していること

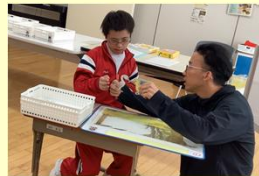
〈学校教育目標〉

- ・健康で、人と調和でき、自分から豊かな生活を築いていく能力を身に付け、よりよい自立と社会参加できる児童生徒を育成する。
- ・目指す児童生徒像
- ・自分で考え、自分で決定し、自分で行動する。
- ・研究主題（令和6年度から3年計画）
- ・自分の思いや考えをもち、社会とかかわる児童生徒の育成

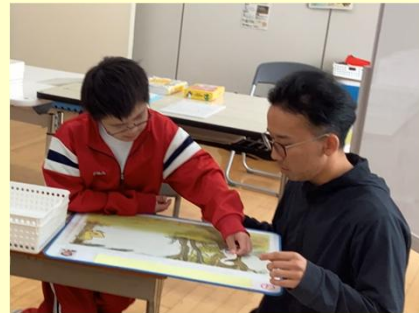
なぜ「思いや考え」に着目したのか

- ・本校では、これまでも子どもの姿を基に、活動・教材・教師のかかわり方等を見直し、支援を改善してきた。
- ・一方で、「目に見えない子どもの内面を、どのように捉え、支援に生かすか」という難しさがあった。
- ・そこで、子どもの表出から「思いや考え」を見取り、その見取りを支援改善につなげることを 研究の出発点とした。

この姿を、どう見取りますか？



「あひると ひよこ がはなす」と確認したあと・・・



あひるとひよこのイラストを離れた位置に貼った。

表出から、子どもの「思いや考え」を推測すること。

Aさんの姿からは、例えば・・・

- ・「文の意味が分かっていないのでは？」
- ・「あひるとひよこは分かっているが、『はなす』の意味が分からない？」
- ・「二人が話しているという関係を捉えにくい？」
- ・「話す」と「離す」が 場面からは判断しにくいのか？

表出 ≠ 思いや考え

では、内面の何に着目をするか？

- ・授業実践を通して、
- ・子どもの内面を「思い」と「考え」に整理した。

※教師が子どもの内面を見る際の視点として整理したものであり、「思い」と「考え」を厳密に二分するための分類ではありません。実際には両者が重なり合う場面もあります。

「思い」と「考え」で整理して捉えた

「思い」 ：活動への動機・エネルギー	「考え」 ：学びの過程における認知
【欲求】	【認識】 【イメージ】
【期待感】	【比較】
【興味】	【判断】 【選択】
【感想】	【疑問】
【気持ち】	【予想】
【感情】	【理解】

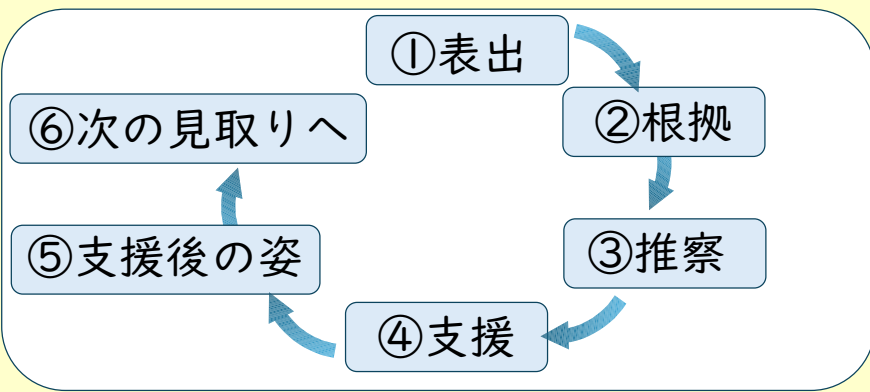
思いや考えの流れの中で見る（ツールの活用）

支援記録シート	
記入者（ ）	対象児童生徒（ ） ※イニシャルまたはアルファベットで記入。
教科・領域 / 単元・題材名（ ）	学部（小・中・高）
単元・題材の目標（ ）	
思い 【感想・気持ち・感情】 【興味】 【欲求】 【期待感】	考え 【認識・イメージ】 【判断・選択】 【比較】 【疑問】 【予想】 【理解】
●目標にかかわる子どもの姿（よかった姿・課題のある姿）	
●次時への支援	

なぜそう見取ったのか（「根拠」の整理）

根拠	
項目	内容等
【実態】	家庭や学校等の普段の様子
【特性】	こだわり、記憶が苦手、常同行動、独特な捉え方などの障害特性
【学習経験】	個別の教育支援計画や個別の指導計画などから
【最近の興味・関心】	最近の人、モノ、コトへの興味・関心
【前時までの学習の様子】	どんな状況（環境構成、教材、教師の支援、友達とのかかわりなど）で、どのような姿が見られたか。印象的だった場面など。
【（本時の）前後の様子】	

見取りをもとに、支援を改善していく



実践例 中学部 国語「じっくり読んであらわそう」

- ・学習集団：中学部1年生 6名
- ・学習活動：文や物語を読み、内容に合うイラストを選び、並べたり、動かしたりしながら場面を表す学習を行った。

① 読む



② 選ぶ

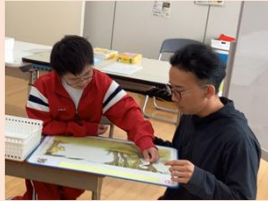


③ 場面を表す



Aさん：見られた姿

関連付けに難しさがあった場面



離れた位置に貼った

できていた場面



正しく対応できた

Aさんは、どこまで文の内容を捉えていたのでしょうか

Aさんの姿を、根拠を基に見取る

推察したAさんの考え

・単語の理解



登場人物や動作は一つずつ捉えられるが、複数の情報を関連付けて読むことに難しさがあるのではないか。

・一つの人物・動作



・複数の人物・状況の関連付け



「できなかったこと」だけでなく、
「できていたこと」を根拠に難しさを絞り込む。

見取りから、支援を更新する

見取り

登場人物や動作は一つずつ捉えられるが、複数の情報を関連付けて読むことに難しさがあるのではないか。



支援の工夫

① 1文の主語と述語を、1つずつにする。

② 動作に着目できるイラストを用意する。

③ 文中の述語に合うイラストを選ぶ。

④ 「ひよこ」「あひる」など、ほかの登場人物でも同様に確認する。

見取りを、具体的な教材・活動の変更につなげる。

支援後に見られた姿

・自分から 文を読む。

・文の内容に合うイラストを選ぶ。

（「誰が」「何をした」を以前よりも捉えることができるようになった。」）

情報を整理して提示することで、
Aさん自身が文を読み、
内容を捉えて活動する 姿が見られた。

一場面の見取りから、 単元を通した思いや考えの「流れ」へ

令和6年度

今、この子は何を思い、
何を考えているか

一場面ごとの見取り



令和7年度

この子の思いや考えは、
単元を通して
どのようにつながり、変化して
いるか

単元を通した見取りへ

見取りは、一場面だけでなく、
単元を通した変化やつながりの中で捉える。

実践から、現在大切だと考えていること

1

表出だけで決め付けない。

子どもの姿を手掛かりに、思いや考えを推察する。

2

「根拠」と「流れ」を大切にする。

前後の姿や学習経験、単元を通した変化から捉える。

3

見取りと支援を往還させる。

支援後の姿から、再び見取りと支援を更新する。

グループ協議にあたって

討議の柱

「子どもの思いや考えを見取り、
支援に生かす授業の在り方」

提案を受けて

- ・感じたこと、共感したこと など

自校の実践を振り返って

- ・子どもの内面を、どんな視点で見取っているか。
- ・内面の見取りをどのように支援に生かしたか など